

徹底した暖房コスト削減による葉物栽培

小又精一氏【七戸町】

○プロフィール

稲作中心の経営から後継者の就農を契機にハウス周年栽培も取り入れた経営に転換。

○ポイント

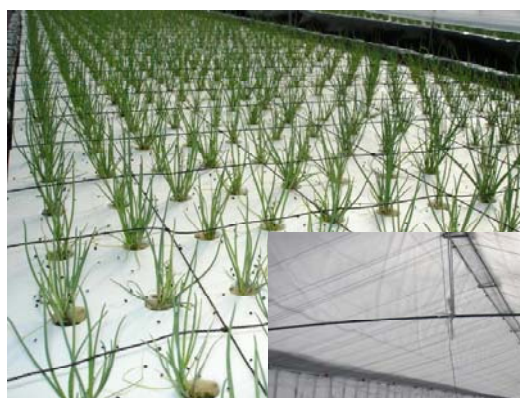
水耕ハウス設置の大幅なコスト削減と市場動向を的確にとらえた品目選定さらに徹底した暖房コスト削減に挑戦

<取り組んだ契機>

- ・ これまでは稲作主体の経営を行ってきたが、後継者の就農を契機に、軽作業で周年栽培が可能な葉物の水耕栽培を導入。

<取組み内容>

- ・ 息子さんが、元JAの指導員だった経験なども活かしながら、ハウス設置に係る部材調達や設置に係るコスト削減に徹底的に努めた。
- ・ 小ねぎ・みず菜は水耕栽培により年7回転、ほうれんそうは土耕栽培により、年4回転の作付体系。
- ・ 栽培する品目は、県内の市場関係者から情報を得ながら、県内ニーズを的確にとらえて選定した。



水耕ねぎ栽培



2重被覆+ベッド毎にトンネル

- ・ 労働力は、家族3人となっており、女性・高齢者でも作業しやすいようにベンチの高さも調節可能。
- ・ 現在、石油価格高騰に対応して、2重カーテンに加え、栽培ベッド毎にトンネルマルチを設置。また、灯油による冬期間の空中暖房を1℃に設定するとともに、電熱線で水耕養液温度を7℃～8℃に加温して暖房コストを削減。

<今後の方向>

- ・ 今後も規模を拡大する意向で、ハウス内の作業が軽作業となっているため、地域の高齢者を積極的に雇用して、交流の場としても活用。
- ・ 暖房については、今後太陽光発電も検討する予定。

○参考 活用した事業

事業名	「冬の農業」産地拡大施設整備事業（平成18年度）
内容	耐雪型パイプハウス、水耕栽培施設など